

## 年間研究活動・調査一覧 (2008.4~2009.3)

調査データ・報告書名	概要	担当者
ワークス大卒求人倍率調査 (2009年卒)	2009年3月卒業予定者の大卒求人倍率(企業側の採用予定数と学生側の民間企業就職希望者数を調査、推計し、大卒求人倍率を算出)に関する調査結果。	徳永 英子
ワークス中途採用実態調査 2008	全国の民間企業を対象に、2007年度の中途正規社員採用実績および、2008年度の中途正規社員予定の調査から中途採用数の伸び率を算出し、中途採用における求人動向を明らかにした。	徳永 英子
ワークス大卒者の新卒採用 見通し調査(2010年卒)	全国の民間企業を対象に、2010年3月卒業予定者の新卒(大学・大学院生)採用における求人動向(増やす・変わらない・減らす)の見通しを明らかにした。	徳永 英子
ワークス中途採用見通し調査 2009	全国の民間企業を対象に、2009年度の正規社員の中途採用の見通しを調査。これにより2009年度の中途採用見通しを従業員規模別、業種別に分析し、中途採用の求人動向を明らかにした。	徳永 英子 戸田 淳仁
外国人雇用に関する 特別調査	全国の民間企業を対象に、国内企業における外国人雇用の現状と今後の見通しや、外国人留学生の採用状況・労働力の活用状況などについて明らかにした。	徳永 英子 戸田 淳仁
雇用の現状 (月刊版、季刊版、年刊版)	マクロデータを基にした雇用マーケットの現状分析。厚生労働省発表の「労働力調査」など官公庁データや、全求協発表の「求人広告件数動向」などを再編集し、就業構造・雇用構造・失業動向・採用需給バランス等についてのデータを集積したもの。	徳永 英子 戸田 淳仁
在日外国人の就業意識に 関する調査	日本に住んでいる外国人の就業実態(就業形態、働く理由など)や、日本人就業者に対する感じ方(抵抗感など)日本での就業意欲などを調査したもの。	徳永 英子
中国・人と組織の実態調査 [上海ホワイトカラーの就業意 識と行動]	中国上海におけるホワイトカラーの就業実態や意識を明らかにすることを目的とした個人調査。「ワーキングパーソン調査」WEB版のデータを同条件で抽出したものを用いて、日中の意識比較分析も行った。 調査期間:2008年9~10月 調査手法:オンライン調査 調査対象:20~30代、短大・大卒以上の社会人(農業人口を除く)男女 サンプル総数:1000	豊田 義博
中国・人と組織の実態調査 [中国日系企業の人材活用]	中国の日系企業の人材マネジメントに関する実態・意識を明らかにすることを目的とした企業調査。 調査期間:2008年12月 調査手法:郵送およびオンライン調査 発送社数:839社 回答社数:162社(回収率19.3%)	豊田 義博
海外勤務者、地方勤務者、 出向勤務者のキャリアと経験 の有益さの調査	海外勤務者、地方勤務者および出向勤務者について、異文化理解、仕事の特性、上司・部下の関係等が個人のキャリアにおいてどのような影響があるかを調査したもの。	谷口 智彦

調査データ・報告書名	概要	担当者
ワーキングパーソン調査 2008	<p>首都圏 50km 圏の雇用者 6500 人を対象に就業実態・意識を調査。2008 はアドホックテーマとして、グローバル関連の設問を追加。調査期間は 2008 年 8 月 22 日～9 月 19 日で、エリアサンプリング訪問留置き法にて実施。</p> <p>(なお、調査手法による回答の違いを比較研究するために、同内容の調査をインターネットでも実施している。)</p>	萩原 牧子
初職フリーター調査 2008	<p>男性で学卒後フリーターとして社会人をスタートした人が、その後、どのような働き方をしているのかを調査。対象エリアは首都圏と関西圏で、2008 年 2 月末にインターネットで実施。</p>	萩原 牧子
社会と生活意識に関するアンケート(調査手法比較研究) 2007	<p>調査手法による回答の違いを比較研究するために、同じ設問を用いて 5 つの調査を同時に実施した。1 つは選挙人名簿から無作為抽出したものへの郵送調査、2 つ目は郵送モニター調査、残り 3 つは異なる会社が運営するインターネットモニター調査である。調査実施時期は 2007 年 10 月、対象は東京(首都圏 50km 圏内)の男女 20 歳から 59 歳。</p>	萩原 牧子
雇用区分に関するアンケート	<p>企業の内部労働市場の構造、特に①正社員の雇用区分に関する実態を把握し、②企業の雇用区分の規定要因と人材の組合せ(人材ポートフォリオ)を明らかにすることを目的とし実施。加えて、③正社員の雇用区分と企業パフォーマンスの関係を推論した。</p> <p>◆調査スペック◆調査対象:従業員数 1000 人以上の企業 5819 社 調査期間:2008 年 10 月 9 日～10 月 24 日 回収数(回収率): 144 社(2.5%)</p>	白石 久喜
グローバル人事の将来に関するアンケート	<p>ワークス研究所の研究パートナー企業を対象に、「グローバル経営における人事課題の再確認と構造化による整理」「各企業のグローバル化の段階の探索」を目的に実施。</p> <p>◆調査スペック◆調査対象:ワークス研究所の研究パートナー企業 318 社 調査期間:2008 年 12 月 5 日～2 月 5 日 回収数(回収率):94 社(29.5%)</p>	白石 久喜
CRANET 国際 HRM 調査 (日本編)	<p>世界 54 カ国をネットワークし隔年で同時に実施されている国際的な人事に関する調査である「クラネット国際 HRM サーベイ(Cranet International HRM Survey)」の 2008 年度調査の日本における実査。人事の基本的な考え方や制度・施策に関する国際調査の中では、最も大規模で、代表的な調査である。</p> <p>◆調査スペック◆調査対象:従業員数 1000 人以上の企業 5441 社 調査期間:一次調査 2008 年 9 月 26 日～10 月 17 日/二次調査 2009 年 1 月 21 日～3 月 13 日 回収数:一次調査 110 社 二次調査 285 社 総回収数(回収率)395 社(7.2%)</p>	白石 久喜

本誌 P244 に一部誤りがございました。

下記に修正後のものを記載いたしますので、ご参照の際は差し替えて頂きますよう、お願い申し上げます。

## Works Review 編集委員会

佐藤 博樹 (東京大学 社会科学研究所 日本社会研究情報センター 教授)  
守島 基博 (一橋大学大学院 商学研究科 教授)  
委員長 矢野 眞和 (昭和女子大学 人間社会学部 教授)  
渡辺 三枝子 (筑波大学 特任教授兼キャリア支援室長)

## リクルート ワークス研究所 スタッフ紹介

所 長 大久保幸夫

### 【 研 究 チ ー ム 】

〔キャリア研究チーム〕

主任研究員 豊田 義博  
主任研究員 笠井 恵美  
研究員 萩原 牧子  
リサーチアシスタント 阪口 祐子  
客員研究員 谷口 智彦

〔労働市場研究チーム〕

主幹研究員 角 方正 幸  
研究員 徳永 英子  
研究員 戸田 淳 仁  
客員研究員 安田 雪  
客員研究員 志 甫 啓

〔人材ビジネス・労働政策研究チーム〕

主任研究員 村田 弘 美  
研究員 杉田 万 起  
研究員 藤野 充 香  
客員研究員 佐藤 義 明  
長岡久美子  
池田 頼 恵

〔キャリア教育研究チーム〕

主任研究員 辰 巳 哲 子  
客員研究員 望 月 由 起  
客員研究員 橋 場 論

〔HRM 研究チーム〕

主任研究員 白石 久 喜  
主任研究員 石原 直 子  
研究員 兵藤 郷  
客員研究員 丸山 一 芳  
客員研究員 西村 孝 史  
客員研究員 田中 信 彦

〔ワークスパートナーズチーム〕

青柳 潤  
松浦 由理

### 【ワークス編集チーム】

Works 編集長 高津 尚 志  
編集 荻野 進 介  
編集 入倉 由 理 子  
編集 前川 裕 志  
アシスタント 手塚 ゆかり  
アシスタント 中野 史 子

〔ワークスムックチーム〕

編集 五嶋 正 風

森 亜 紀  
手塚 智 子  
齋藤 美 枝

(2009. 3. 31 時点)